

## 編集 後記

例年になく異常気象のせいか、連日の大雪による被害の報に心重く感じております。雪国育ちの小生にとって、雪降ろしの厳しさと危険度は十分承知しておりますが、被害者の多くが高齢者であることを聞くにつれて高齢化社会の一端を垣間見る思いがいたします。さて、2005年度版の『年報』第40号を刊行する運びとなり心から嬉しく思うとともに、刊行に当たり執筆協力を頂いた参与と所員をはじめとする関係者に感謝申し上げます。

本年度の編集経緯をみますと、論文7編、研究ノート3編の執筆申し込みをいただきました。特に、本年度は社研プロジェクト「中国社会研究」がスタートした年でもあり、中国との学術合同シンポジウムや研修旅行も積極的に開催されました。ぜひ来年度の年報はこれらの成果を特集できることを期待いたします。ここ数年の状況を考慮しますと、恐らく4、5編の辞退が予測されましたので、総会承認後の申し込みでも承認する措置を取らせてもらいました。結果としては3編の辞退で済みましたが、すべて所員担当分であったことが残念でした。また、本年度は編集のスケジュールの関係で、かなり締め切りの厳守を徹底したため、ご不満のあった

所員もいたのではないかとと思いますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。編集上毎年懸念される問題ですが、ここ数年の執筆状況をみていますと、所員の参加意欲が乏しいように思われ、編集担当としてはいささか危機感を抱いております。参与の先生方の若々しい執筆気迫に、私たち所員が押し込まれないように、所員の皆さん、若々しい参与の先生方に負けぬように積極的に参加してください。

さらに、事務・編集作業全般をサポートして頂いた土屋みな子さんには、何かと無理なことをお願いしまして大変申し訳ありませんでした。いろいろと雑用を持つ運営委員にとって本当に助かりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、最後になりましたが、本年度も編集作業を進める上で、公人社の大出明知氏には何かとご無理をお願いし大変お世話になり、心から御礼申し上げます。

(前田和實)